

J **apanese text**

2019年 春/夏号 日本語編

イベント
ガイド

文=鈴木糸子、岡崎 香

p.070

**気鋭デザイナーによる
新しいアプローチの企画展**

プロダクトデザインからブランディング、キュレーションまで、幅広く活躍するデザインオフィス「nendo」。国際的にも注目を集める彼らが関わる企画展が、世界各地で開催される。オーストラリアで開かれている「Escher X nendo | Between Two Worlds」は、錯視を利用した作品で知られるエッシャーとの二人展。“エッシャーの思考の変遷”という独創的な分類によるエッシャー作品群のグルーピングをベースに、nendo がオブジェや空間をデザイン。エッシャーの表現手法から着想し、展示会のアイコンとして家型のオブジェやグラフィックをリフレインさせ、空間デザインはモノトーンで統一。テーマ性をもった大小9つの空間が、特別な体験をもたらす。また、東京では「information or inspiration?」が開催。サントリー美術館所蔵の日本美術コレクションの中から選定した27点を、新たな視点で鑑賞できるよう構成される。制作背景を知ることによって生まれる「information (左脳的感動)」と、目にするだけで心揺さぶられる直観的な「inspiration (右脳的感動)」という二つの感情に着目。それぞれに訴えかける二つの鑑賞方法を各作品に対して提案することで、左脳と右脳への意識を高めるとともに、個々で大きく異なる鑑賞者間のコミュニケーションを誘う。そのほか、4月に開かれるイタリアのミラノサローネでは、“空気”をテーマにした個展「breeze of light」が開催され、影の明滅によって風を感じることが出来る空間インスタレーションを展開。デザインとアートの世界をさらに奥深くする、ユニークなアプローチにこれからも目が離せない。(鈴木糸子)

『Escher X nendo | Between Two Worlds』

～4月7日

National Gallery of Victoria

www.ngv.vic.gov.au/exhibition/escher-x-nendo-between-two-worlds

『nendo × Suntory Museum of Art

information or inspiration? 左脳と右脳でたのしむ日本の美』

4月27日～6月2日

サントリー美術館

www.suntory.com/sma/

『breeze of light』

4月9日～4月14日

TENOHA MILANO

www.salonemilano.it/en/

**魚食文化を支えるかまぼこの魅力に迫る
かまぼこ博物館**

900年以上前から日本で食べられてきた、魚のすり身で作られる「かまぼこ」。漁業が盛んで大都市・江戸にほど近かった小田原は、名産地の一つだ。老舗メーカーが運営する「かまぼこ博物館」では、その魅力に迫る多角的な展示と体験を用意。なりたちや素材、美味しさの秘密を科学的に学ぶコーナーや、職人が手作りする様子をガラス越しに眺める工場見学。またかまぼこや、魚のすり身を焼いたちくわの手作り体験は、子どもでも参加できる大人気プログラム。さらに、てのひらサイズのかまぼこ板をキャンバスにしたアート作品の展示もある。各種かまぼこや小田原の名産品などが販売される店舗やレストランも併設され、東京から足を延ばして楽しむ旅行先としても最適だ。(鈴木糸子)

神奈川県小田原市風祭 245

午前9時～午後5時

無料

www.kamaboko.com/en/

日本オペラ史上初の 大規模コラボレーション

『オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World』

東京文化会館と新国立劇場が国内各地の劇場と連携し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて展開する国際的なオペラプロジェクト。総合プロデュースと指揮は、発案者でもある大野和士。今夏は、プッチーニ作曲『トゥーランドット』を、先の2劇場とびわ湖ホール、札幌文化芸術劇場で上演。演出は、バルセロナ五輪の開会式を手がけたスペインの演出家集団ラ・フーラ・デルス・バルスの芸術監督アレックス・オリエ、演奏は大野が音楽監督を務めるバルセロナ交響楽団。2020年は、ワーグナー作曲『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を欧州の団体と国際共同制作。演出は、ドイツ・オペラ界屈指の注目株イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク。(岡崎 香)

『トゥーランドット』

7月12～14日 東京文化会館 大ホール

7月18日、20日、21日、22日 新国立劇場 オペラパレス

7月27日、28日 びわ湖ホール 大ホール

8月3日、4日 札幌文化芸術劇場 hitaru

opera-festival.com/en